

# 令和7年度 布佐中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

4月に3年生を対象として実施した、全国学力・学習状況調査（国語・数学・理科・アンケート）の分析結果を以下に記載します。ご覧ください。

## ◇令和7年度の調査結果の分析◇

### I 調査結果にみられる特徴と現状分析

#### 【国語】

- ・過去2年と比べて、「知識及び技能」の領域が向上している。これは、漢字テストと語彙力テストの実施を2年間継続してきた結果だと考えられる。
- ・「書くこと」「話すこと聞くこと」の領域に課題がある。読み取ることはできて、それをアウトプットすることが苦手であるため、短い文章を書いたり、スピーチを実施したりして、アウトプットの機会を増やす必要がある。

#### 【数学】

- ・「数と式」の領域では、全国平均に近く比較的、基礎的な計算は身についていると考えられる。一方で、特に「関数」の領域に課題がある。ともなって変わる数量関係を表・式・グラフに関連付けて考えさせていく必要がある。
- ・記述式と「図形」の領域に課題があることから、図形の性質を見出し、その性質を証明する方法を身に付けていく必要がある。

#### 【理科】

- ・「生命」を柱とする領域が県や全国の平均に近く、学習内容が定着している。また、選択式の問題のように、答えのヒントがあるような問題では正しく答えることができている。
- ・短答式や記述式など自分の言葉で答える問題の正答率が低く、一から問題を解く力に課題がある。

#### 【アンケート】

- ・教科面では、国語に関する意識および学習活動でポジティブな回答が多かった。また、その他の読書においてもポジティブな回答が多かった。昨年度から実施している毎週の読書活動が一定の改善の効果を発揮していると考えられる。
- ・学習習慣についての回答が低い傾向にあることから、授業だけではなく主体的に学習に取り組む態度の育成が必要であると考えられる。

### II 改善目標

- ・「知識・技能」の習得に向けた主体的な学習習慣を身に付けさせる
- ・「思考力・判断力・表現力」の向上に向けた協働的な学習の推進
- ・ICTの効果的な活用の推進

### III 改善方策

- ・授業の中でグループ活動の積極的活用
- ・読書活動の一層の活性化
- ・小中間での、学習内容、学習習慣の連携・協働

#### Ⅳ 検証方法

- ・全国学力学習状況調査結果の分析
- ・授業の振り返り
- ・定期テスト、各テストの効果的活用
- ・保護者アンケート
- ・学校運営協議会会議
- ・職員による自己評価アンケート